相談事例①

「友達に嫌な言葉を言ってしまい、離れていってしまった・・・」

そんなとき、スクールカウンセラーはどんなことをしてくれますか？

●対象児童生徒：中学１年生　女子

小学校の頃から会話の中で相手が傷つく発言をしてしまうことが多く、友達が離れていってしまう。進学後もその発言は続き、クラスや部活にいることが辛くなった。

●スクールカウンセラーの取り組みと児童の変化

７月 スクールカウンセラーとの相談を開始	・クラス（友達）の会話で相手を傷つけてしまうが、それがどの言葉なのかわからない。 ・話を聴いていくと「友達が突然離れてしまうことの孤独感」、「また傷つけてしまうかもしれない不安感」が語られた。
９月 自分に対しての気づき・対処法の練習を始める	・「傷つけてしまう言葉」→自分にとってはOKだが、相手にとっては傷つく言葉ということに気がついた。 ・相手の表情を読み取ることが苦手だったため、表情カードで表情に注目する練習を行った。 ・とげとげ言葉を学ぶと同時に、ふわふわ言葉も合わせて視覚的な情報として得られるように、一緒にハンドブックを作成。
１１月 クラスの中で練習したことを実践してみる	・ハンドブックを用いて実際にクラス内で実践し、SC 面接時にフィードバックを行った。 ・本人の頑張りを評価することを繰り返し、成功体験を積んだ。 ・表情の読み取りもできるようになり、友人関係が改善した。

●保護者みなさま、学校の先生方へ

人間関係がうまくいかない・・・そんなときは、スクールカウンセラーに相談してみてください。

スクールカウンセラーは身近な相談相手です。お子さんや保護者の方の悩んでいる思いや辛さを聞き、何かアドバイスができるかもしれません。家族や学校の先生に話せないことも、スクールカウンセラーは秘密を守るので構えずに相談にきてください。お子さんの学校生活をより良いものにするために、一緒に考えていきます。